

差出人: みなと総局総務課 妻鹿 <masamichi_mega@office.city.kobe.lg.jp>
送信日時: 2017年7月6日木曜日 10:56
宛先: undisclosed-recipients:
件名: 7月5日付 環境省によるアリの調査状況報告について
添付ファイル: ①環境報道発表資料（兵庫県内）_set.pdf; ②環境省ヒアリ参考資料.pdf

関係者各位

いつもお世話になっております。
神戸市みなと総局総務課です。

昨日環境省よりアリの調査状況の報告がありましたので、
別添の通り資料を送付いたします。

○概要（詳細については別添資料をご参照ください）

- ・平成 29 年 5 月 26 日、県内の輸入コンテナ内部でヒアリが確認（当該コンテナ内個体は全て消毒処分済み）されたが、消毒処分個体を専門機関で分析したところ、7 月 5 日に少なくとも働きアリ 500 個体以上が確認され、そのなかに有翅（ゆうし）メス（女王）や、有翅オス等が含まれていた。
- ・ヒアリの生息が確認された神戸市のポートアイランド PG18 内に設置していたトラップ
にヒアリの疑いのある 1 個体が捕獲され、6 月 28 日に回収し専門機関で同定したところ、
7 月 5 日ヒアリであることが確認。

○環境省の見解

- ・当該コンテナで 5 月 26 日に確認されたアリには幼虫やさなぎが混じっており、当初より有翅アリの存在も想定されていたことから、今回の確認により、リスクが高まった訳ではない。
- ・6 月 28 日に捕獲された個体が新たにヒアリと確認されたことを踏まえ、引き続き、
神戸市と尼崎市と連携協力してコンテナが留め置かれた地点の周辺においてトラップの設置等による調査及びベイト剤による予防措置を継続するとともに、ヒアリが確認された場合、速やかに防除を実施予定。

神戸市としても、これまでお伝えした通り、周辺の調査等を継続実施いたします。
関係者の皆様方におかれましては引き続きご注意をお願いいたします。

今後も追加の情報等が入りましたら改めて連絡させていただきます。
以上、関係各位への情報提供等よろしくお願いいたします。

——*—*—*—*—*—*—*—*

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1

神戸市みなと総局経営企画部総務課厚生環境係

妻鹿 真倫（めが まさみち）

TEL（直通）：078-322-5655（内線 5318）

FAX : 078-322-6120（内線 7620）

E-mail : masamichi_mega@office.city.kobe.lg.jp

——*—*—*—*—*—*—*—*

兵庫県内におけるアリの調査状況報告について

平成29年7月5日（水）
環境省自然環境局
野生生物課外来生物対策室
直通 03-5521-8344
室長 曾宮 和夫
室長補佐 八元 綾
担当 三宅 悠介
近畿地方環境事務所 野生生物課
直通 06-4792-0706
課長 澤志 泰正
課長補佐 深田 富士雄

平成29年5月26日に兵庫県内において輸入コンテナの内部でヒアリが確認されましたが、当該コンテナ内の個体は、全て薬剤の燻蒸により消毒処分されています。これら消毒処分個体を専門機関で分析したところ、7月5日に少なくとも働きアリ500個体以上が確認され、そのなかに有翅（ゆうし）メス（女王）や、有翅オス等が含まれていました。

また、ヒアリの生息が確認されていた神戸市のポートアイランドPC18内に設置していたトラップにヒアリの疑いのある1個体が捕獲され、6月28日に回収し専門機関で同定したところ、7月5日ヒアリであることが確認されました。

環境省では引き続き関係自治体と協力してモニタリング調査を実施するとともに、ヒアリが確認された場合には速やかに防除を行います。

1. 経緯等

平成29年5月26日に兵庫県尼崎市においてヒアリ（*Solenopsis invicta*）が輸入コンテナ（1個）の内部で確認された事を受け、環境省では神戸市及び尼崎市と協力して、当該コンテナが一時的に留め置かれた地点（兵庫県神戸市2カ所、尼崎市1カ所）の周辺において、捕獲トラップ等を設置し、ヒアリの侵入の有無を確認するための緊急調査を実施しています。

① 5月26日分（コンテナ内の個体）

当該コンテナは薬剤により燻蒸され、内部で確認された個体は、全て消毒処分されました。この燻蒸したアリの個体を研究機関で分析したところ、以下が確認されました。

- 有翅メス（女王アリ）

全体 1
頭胸部（頭部及び胸部） 1
腹部 1

● 有翅オス

全体 2
頭胸部（頭部及び胸部） 3
胸部 6
腹部 8
胸腹部（胸部及び腹部） 2

今回調査を行ったサンプルは薬剤により長時間燻蒸され、コンテナ内の異物とともに回収されたことから、劣化および破損した個体が多い状態です。このため、働きアリの総数については、正確な個体数を見積もることは困難な状況にあります。概ねの概数として、少なくとも 500 個体以上になります。

なお、ヒアリの働きアリや有翅オスは、仮に屋外に逸出した場合でも、単独で繁殖することはありません。

有翅メス頭胸部及び有翅オス頭胸部には羽が存在していることから、有翅メス及び有翅オスは各々少なくとも 2 個体及び 5 個体を確認しました（今後の分析によっては、さらに有翅個体の部位が確認される可能性もあります）。

② 6 月 28 日分（ポートアイランド PC18 内の個体）

また、ポートアイランド PC18 のヒアリ発見場所近くに調査のため設置していたトラップで、ヒアリの疑いのある個体が 1 個体捕獲され、専門機関において同定したところ、ヒアリであることが確認されました。

2. 今後の予定

当該コンテナで 5 月 26 日に確認されたアリには幼虫やさなぎが混じっており、当初より有翅アリの存在も想定されていたことから、今回の確認により、リスクが高まった訳ではありません。

一方で、6 月 28 日に捕獲された個体が新たにヒアリと確認されたことを踏まえ、引き続き、神戸市及び尼崎市と連携協力して、コンテナが留め置かれた地点の周辺においてトラップの設置等による調査とベイト剤による予防措置を継続するとともに、ヒアリが確認された場合、速やかに防除を実施します。

(写真) 兵庫県立人と自然の博物館提供



(参考)

ヒアリについて

1. 生態について

- 原産地：南米
- 日本での定着状況：国内未定着
- 亜熱帯～暖温帯に生息し、草地など比較的開けた環境を好む。土で直径 25～60 cm、高さ 15～50 cm のドーム状のアリ塚を作る。雑食性で、節足動物、小型脊椎動物、樹液、花蜜などを餌とする。

2. 懸念される影響

- (1) 生態系にかかわる影響：他種のアリと競合し駆逐するおそれがある。極めて攻撃的で、節足動物のほか爬虫類、小型哺乳類をも集団で攻撃し捕食することが知られ、鳥類の営巣・雛の生育に影響を及ぼした例もある。
- (2) 農林水産業にかかわる影響：牛、馬、鶏など家畜への死傷被害
- (3) 人体に関わる被害：刺されると、アルカロイド系の強い毒による痛みやかゆみ、発熱、じんましん、激しい動悸等の症状が引き起こされる。アレルギー性のショックで昏睡状態に陥ることもある。米国ではこれまでに多くの死者が出ているが、広く定着している台湾での死亡例は報告されていない。

※貨物等に紛れて気付かないうちに持ち込まれ、アメリカ、オーストラリア、マレーシア、中国、台湾など環太平洋諸国に分布が急速に広がっている。

